

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	言語教育研究センター(教務機構)
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員(教職員および学生)に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 全学的に学生の英語運用能力向上を目指し、英語インテンシブ・プログラムのクラス数を3年以内に2割増加させる。	→多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。	A	A	A	A	A
2. 英語、フランス語、ドイツ語、中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の教育と研究に関する共同研究の実施。	→「言語コミュニケーション教育ならびに言語教育のカリキュラム・教材の開発と研究」をテーマとした、各言語部会における共同研究成果の公表、『センター研究年報』の発行。言語教育に係る専任教員の成果公表、『言語と文化』の発行。	A	A	A	A	A
3. 選択必修科目としての中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語の全学提供体制を見直す。	→全学提供体制をとる言語の体制の充実・改善。(履修希望者数、開講クラス数を指標として)	B	B	A	B	B
4. 多言語・多文化の視野に立った学部横断的な言語教育のメニューを提供する。	→12種の選択言語の提供。インテンシブ・プログラムを含む全学的な言語教育活動を紹介するパンフレットの作成と配布。	A	A	A	A	A

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
5. 『英語コミュニケーション文化』副専攻プログラム履修者の修了率を、現行の2倍に高める。	→履修者のプログラム修了率		B	B	A	B
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 英語インテンシブ・プログラムに、2013年度より新たに2レベル(プレインターミディエイト、スーパーアドバンスト)を新設し、計5レベルの習熟度別言語教育に拡大した。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か プレインターミディエイトでは、英語力中位層全体の底上げを図り、スーパーアドバンストでは、帰国生徒、留学経験者および上位学習者に対する高次学習の機会を提供することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後の大学全体の施策にリンクし、さらなる学生の英語運用能力向上を目指す。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 各言語教育委員会においては、効果的な言語教育のためのカリキュラムと教材の開発に関する共同研究を実施し、毎年その成果を『言語教育研究センター研究年報』等の雑誌において報告してきた。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 当該期間中に、『言語教育研究センター研究年報』に計41件の研究報告を行った。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も、各言語教育委員会において共同研究を実施していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 中国語、朝鮮語、スペイン語、日本語は全学提供体制をとっている。大学組織の改編に伴い、留学生を対象にした日本語教育は、教務機構の中に位置する言語教育研究センターから、国際連携機構の中に位置する日本語教育センターへと移管された。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 中国語、朝鮮語、日本語では、ほぼ100%の履修希望充足率であるが、スペイン語では年々数値が低下し、2014年度入学生では56%と低い水準となっている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 履修希望充足率等、言語間での格差を縮小させる。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標4	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 英語、フランス語、ドイツ語のインテンシブ・プログラムや選択外国語科目(フランス語、ドイツ語、ロシア語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語、アラビア語、中国語、朝鮮語、インドネシア語)を開講している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 12種の選択言語の提供ができた。学部横断的な言語教育のメニューを提供することができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 現状を維持していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆

目標5	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 履修者の修了率を高めるため、2011年4月に、複数分野専攻制の「英語コミュニケーション文化」副専攻プログラムの修了要件の見直しを含む改革を実施した。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 履修者のプログラム修了率は、目標設定時は16.1%で、2013年度は24.1%と大幅にアップしたが、目標の2倍には届かなかった。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 目標とする2倍の修了率を実現させるべく、今後も履修者のプログラム修了率を高めていく。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆